



2025年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年5月15日

上場会社名 株式会社ペッパーフードサービス 上場取引所 東
コード番号 3053 URL <http://www.pepper-fs.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 CEO (氏名) 一瀬 健作
問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 開発本部長 兼 総務本部長 (氏名) 猿山 博人 TEL 03(3829)3210
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年12月期第1四半期の業績 (2025年1月1日～2025年3月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年12月期第1四半期	3,453	△2.9	△24	—	△20	—	△42	—
2024年12月期第1四半期	3,555	△1.7	△50	—	△30	—	△50	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年12月期第1四半期	△0.71	—
2024年12月期第1四半期	△0.90	—

(注) 「潜在株式調整後1株当たり四半期純利益」については潜在株式は存在しているものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年12月期第1四半期	5,431	3,121	57.4
2024年12月期	5,642	3,152	55.8

(参考) 自己資本 2025年12月期第1四半期 3,116百万円 2024年12月期 3,147百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2025年12月期	—				
2025年12月期 (予想)		0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年12月期の業績予想 (2025年1月1日～2025年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期 (累計)	6,983	0.0	△19	—	△20	—	△56	—	△0.95
通期	14,316	2.3	129	68.6	128	23.2	54	90.3	0.92

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：有
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年12月期 1 Q	59,706,000株	2024年12月期	59,663,800株
② 期末自己株式数	2025年12月期 1 Q	220株	2024年12月期	220株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2025年12月期 1 Q	59,668,738株	2024年12月期 1 Q	55,648,129株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第1四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(企業結合等関係)	7
(会計方針の変更に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、先行きの賃金改善の期待などにより内需を中心に緩やかな成長を維持しつつも、政策についての不確実性や物価の高止まりの長期化などによる個人消費の伸び悩みが見られました。また、世界経済においては、米国を中心に金融市場や政策運営を巡る不確実性は高く、地政学的緊張などを背景に引き続き不透明な状況です。外食産業においては、全体的に回復基調にあるものの、原材料価格の高騰や人材確保に係る費用の増加など、依然として厳しい環境が続いております。

こうした状況のもと、2025年は『漸進』を当社のテーマとして、お客様へ安心・安全な商品の提供を最優先課題としながら、既存店舗のDX化の推進、アジアを中心とした海外展開、新規事業開発に注力しました。

これらの結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,453百万円(前年同期比2.9%減)、営業損失は24百万円(前年同期は50百万円の営業損失)、経常損失は20百万円(前年同期は30百万円の経常損失)、四半期純損失は42百万円(前年同期は50百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの経営成績は次のとおりです。

① いきなり！ステーキ事業

いきなり！ステーキ事業につきましては、引き続き調理技術、店舗サービス力の強化を行うとともに、魅力ある商品を期間限定キャンペーンとして打ち出し、お客様数の増加に努めてまいりました。また、アプリ会員限定の施策により会員様の新規獲得に尽力いたしました。

国内においては、1月28日に『いきなり！ステーキBRANCH博多パピヨンガーデン店』を約5年ぶりにオープンいたしました。セルフオーダーシステムや、ご家族などグループのお客様にもゆったりとお食事を楽しんでいただけるよう、客席にベンチシートを増やしたレイアウトとなっております。また、商品キャンペーンにつきましては、1月17日より『フランクステーキ』、3月14日より『US産ブレッドミート』など、希少部位を期間限定で販売いたしました。

海外においては、台北、フィリピン、インドネシアの既存店売上は引き続き好調に推移しております。1月21日に、台湾にて現地法人の『SHIN ICHI CO., LTD.』社とエリアフランチャイズ契約を締結し、2月9日に同社台湾2号店目となる『Ikinari Steak 桃園春日館店』をオープンいたしました。また、2月27日にインドネシアにて3号店目となる『Ikinari Steak Plaza Indonesia店』をオープンいたしました。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は3,307百万円(前年同期比3.8%減)、セグメント利益は298百万円(前年同期比28.4%増)となりました。

② レストラン事業

レストラン事業においては、株式会社フードキャッチ社より海鮮居酒屋業態である『かいり』ブランドを3月1日付で譲り受けました。海鮮事業という新しい市場に参入することで、多角化による経営基盤の安定と収益の拡大に努めております。

既存店においては、季節限定メニューの販売や周年祭キャンペーンを個店販促にて実施いたしました。また、すき焼き業態の『すきはな』では、「神戸牛」の取り扱いを開始し、ブランド価値や商品力の向上に努めるとともに、ランチメニューを導入し収益向上に尽力しております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は133百万円(前年同期比31.6%増)、セグメント損失は0百万円(前年同期は10百万円のセグメント利益)となりました。

③ 商品販売事業

商品販売事業につきましては、「冷凍ワイルドステーキ」、「冷凍ガーリックライス」、「冷凍ハンバーグ」の他、家庭でもお店の味が楽しめるよう、オリジナルスパイスやソースを各大手モールにて出店販売いたしました。また、デリバリー専門ブランド『いきなり！やきにく』は、販売網を国内100拠点以上に増やし、収益向上に努めております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は12百万円(前年同期比10.4%減)、セグメント損失は0百万円(前年同期は2百万円のセグメント損失)となりました。

④ その他事業

その他事業につきましては、店舗FC開発、店舗サポート、事業開発及び購買に関する間接収益部門の事業となっております。新規加盟店の出店が発生していないため、収益力が低下しております。

この結果、当第1四半期累計期間における売上高は0百万円(前年同期比80.3%減)、セグメント損失は38百万円(前年同期は26百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第1四半期会計期間末の総資産は、前事業年度末に比べて210百万円減少し5,431百万円となりました。これは主に、現金及び預金が352百万円減少したこと及び事業の譲受によりの前払金が増加したことによるものです。

負債は、前事業年度末に比べて179百万円減少し2,310百万円となりました。これは主に買掛金が30百万円減少したこと、未払金が57百万円減少したこと及び未払法人税等が48百万円減少したことによるものです。

純資産は、前事業年度末に比べて30百万円減少し3,121百万円となりました。これは主に、利益剰余金が42百万円減少したこと及び第14回新株予約権の行使に伴い資本金、資本剰余金がそれぞれ4百万円増加したことによるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年2月14日付「2024年12月期決算短信〔日本基準〕(非連結)」で公表いたしました第2四半期累計期間及び通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位: 百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,179	1,827
売掛金	607	574
商品	154	153
貯蔵品	29	31
その他	552	468
貸倒引当金	△30	△30
流動資産合計	3,493	3,023
固定資産		
有形固定資産		
建物	567	598
その他	132	152
有形固定資産合計	700	750
無形固定資産		
のれん	—	195
その他	67	68
無形固定資産合計	67	264
投資その他の資産		
敷金及び保証金	1,105	1,115
繰延税金資産	43	43
その他	243	245
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	1,381	1,393
固定資産合計	2,148	2,408
資産合計	5,642	5,431

(単位：百万円)

	前事業年度 (2024年12月31日)	当第1四半期会計期間 (2025年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	793	763
未払金	280	223
未払法人税等	63	15
契約負債	16	16
賞与引当金	—	16
資産除去債務	20	9
株主優待引当金	30	30
債務保証損失引当金	68	65
事業構造改善引当金	1	1
その他	443	386
流動負債合計	1,719	1,526
固定負債		
長期契約負債	14	22
資産除去債務	404	406
事業構造改善引当金	4	3
その他	347	349
固定負債合計	770	783
負債合計	2,489	2,310
純資産の部		
株主資本		
資本金	10	14
資本剰余金	3,107	3,111
利益剰余金	28	△13
自己株式	△0	△0
株主資本合計	3,146	3,112
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	0	3
評価・換算差額等合計	0	3
新株予約権	5	5
純資産合計	3,152	3,121
負債純資産合計	5,642	5,431

(2) 四半期損益計算書
(第1四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
売上高	3,555	3,453
売上原価	1,545	1,393
売上総利益	2,009	2,059
販売費及び一般管理費	2,059	2,084
営業損失(△)	△50	△24
営業外収益		
受取利息	0	0
協賛金収入	2	3
受取保険金	20	—
賃貸借契約解約損戻入益	1	—
その他	6	6
営業外収益合計	30	10
営業外費用		
支払利息	1	0
支払保証料	6	6
為替差損	2	—
その他	0	0
営業外費用合計	10	6
経常損失(△)	△30	△20
特別利益		
固定資産売却益	0	—
特別利益合計	0	—
特別損失		
固定資産除却損	—	0
減損損失	2	2
特別損失合計	2	2
税引前四半期純損失(△)	△32	△23
法人税、住民税及び事業税	17	18
法人税等調整額	—	—
法人税等合計	17	18
四半期純損失(△)	△50	△42

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

(事業譲受)

当社は、2024年12月25日開催の取締役会において、株式会社フードキャッチが営む飲食店事業のうち、「かいり」ブランド居酒屋事業を譲り受ける事業譲受契約の締結を決議し、同日付で事業譲受契約を締結いたしました。当契約に基づき、2025年3月1日に当該事業の事業譲受を完了いたしました。

1. 事業譲受の概要

(1) 譲受先企業の名称及び事業の内容

譲受先企業の名称 株式会社フードキャッチ

事業の内容 飲食店運営・プロデュース及びFC展開、店舗設計・施工

労働者派遣事業及び日用雑貨の販売

(2) 事業譲受を行った主な理由

当社は、これまで「いきなり！ステーキ」を中心に牛肉をメインとする飲食店の運営をしてまいりましたが、今回の譲受により、海鮮業態という新たな市場に参入することで、多角化による経営基盤の安定と収益の拡大、強化を図ってまいります。

(3) 事業譲受日

2025年3月1日

(4) 事業譲受の法的形式

現金を対価とする事業譲受

2. 四半期累計期間に係る四半期損益計算書に含まれる取得した事業の業績の期間

2025年3月1日から2025年3月31日まで

3. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

取得の対価	現金	200百万円
取得原価		200百万円

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

仲介手数料等 31百万円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) 発生したのれんの金額

197百万円

(2) 発生原因

主として今後の事業展開によって期待される将来の超過収益力であります。

(3) 償却の方法及び償却期間

8年間にわたる均等償却

6. 譲受事業日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	1百万円
固定資産	0百万円
資産合計	2百万円
流動負債	－百万円
固定負債	－百万円
負債合計	－百万円

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」(企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分(その他の包括利益に対する課税)に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。)第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、これによる四半期財務諸表に与える影響はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)	当第1四半期累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)
減価償却費	44百万円	41百万円
のれん償却額	—	2百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,439	101	14	0	3,555	—	3,555
計	3,439	101	14	0	3,555	—	3,555
セグメント利益 又は損失(△)	232	10	△2	△26	213	△263	△50

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△263百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(単位:百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	2	—	—	—	2	2

Ⅱ 当第1四半期累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期 損益計算書 計上額 (注3)
	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業				
売上高 外部顧客へ の売上高	3,307	133	12	0	3,453	—	3,453
計	3,307	133	12	0	3,453	—	3,453
セグメント利益 又は損失(△)	298	△0	△0	△38	258	△282	△24

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、加盟開発部門、事業開発部門、営業サポート部門、購買部門等が含まれております。

2. セグメント利益又はセグメント損失の調整額△282百万円は、各セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又はセグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る減損損失)

(単位:百万円)

	いきなり! ステーキ事業	レストラン 事業	商品販売事業	その他	計	財務諸表 計上額
減損損失	2	—	—	—	2	2

(のれんの金額の重要な変動)

当第1四半期累計期間において、事業の譲受により、のれんが発生しております。当該事象によるのれんの増加額は、195百万円であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項ありません。

(重要な後発事象)

(新株予約権の行使)

当第1四半期累計期間後、当社が2022年12月26日に発行した第14回新株予約権(行使価額修正条項付)の権利行使が行われております。

新株予約権が行使され、2025年4月1日から2025年5月15日までに発行した株式の概要は以下のとおりであります。

- (1)行使された新株予約権の個数 8,729個
- (2)発行した株式の種類及び株式数 普通株式 872,900株
- (3)資本金増加額 87百万円
- (4)資本準備金増加額 87百万円

以上により、発行済株式総数は872,900株、資本金及び資本準備金はそれぞれ87百万円増加し、2025年5月15日現在の発行済株式総数は60,578,900株、資本金は101百万円、資本準備金は91百万円となっております。